

## 85.

615.766.7

「ナトロアクチワルサン」及ビ「ネオアクチワルサン」  
ノ臨牀治験成績ニ就テ

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室（主任根岸教授）

副手 醫學士 黒山 眞 吾

[昭和13年5月27日受稿]

*Aus der Dermato-Urologischen Klinik der Medizinischen Fakultät Okayama,  
(Vorstand: Prof. Dr. H. Negishi)*

## Klinische Erfahrungen mit Natro- und Neoaktivarsan.

Von

Dr. Singo Kuroyama.

Eingegangen am 27. Mai 1938.

Natro- und Neoaktivarsan werden neulich von der Nippon Soda Co., Ltd. hergestellt und auf den Markt gebracht. Wir haben viele Luetiker damit behandelt und sind zu den folgenden Resultaten gekommen.

- 1) Natro- und Neoaktivarsan gehören zu den rein japanischen, intravenös injizierbaren Salvarsan-Präparaten und ihr Preis ist niedrig.
- 2) Beide Präparate werden in destilliertem Wasser leicht gelöst; die Gebrauchsanweisung ist auch sehr einfach.
- 3) Sie sind in verschiedenen Stadien der Syphilis sehr wirksam und nicht weniger erfolgreich wie andere Salvarsanpräparate.
- 4) Nennenswerte schwere Nebenerscheinungen sind kaum nachweisbar, daher können sie ohne Bedenkung empfohlen werden.
- 5) Vom rein klinischen Standpunkt aus ist schwer festzustellen, welches von beiden Präparaten besser ist. (Autoreferat)

目次

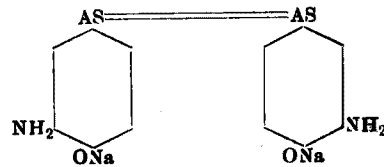
第1章 緒言  
 第2章 統計的觀察  
   第1節 微毒各期及ビ注射總量ト微毒血清反應ノ消長  
     第1項 「ナトロアクトワルサン」ニ就テ  
     第2項 「ネオアクトワルサン」ニ就テ  
   第2節 副作用  
     第1項 「ナトロアクトワルサン」ニ就テ  
     第2項 「ネオアクトワルサン」ニ就テ  
 第3章 症例  
   第1節 「ナトロアクトワルサン」ニ就テ  
   第2節 「ネオアクトワルサン」ニ就テ  
   第3節 微毒以外ノ疾患ニ應用セル例  
 第4章 總括  
 第5章 結論

第1章 緒言

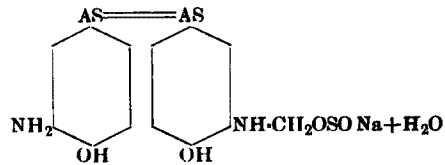
微毒ノ治療ニハ古來水銀及ビ沃度劑ガ使用セラレタルモ、近年蒼鉛劑モ亦缺ク可カラザルモノトナス。然リト雖モ驅微劑ノ主體ヲナスモノハ謂フ迄モナク砒素劑ニシテ特ニ Ehrlich-Hata ノ Salvarsan ハ其ノ代表的ノモノナリ。Salvarsan ノ創製以前ニモ Uhlenhut ノ Atoxyl ヲ始メ其ノ他多數ノ有機砒素劑ノ治療界ニ發表セラレタルモノ有リシガ何レモ其ノ毒性強クシテ汎ク用ヒラルルニ至ラザリシナリ。今日一般ニ使用サルル「サルワルサン劑」ハ Neosalvarsan 若シクハ之ト組成ヲ同ジウスル各國ノ製劑ナリ。彼ノ歐洲大戰當時、一時「サルワルサン劑」ノ輸入杜絶スルヤ需要上本邦製藥界ニ於テ同劑ノ製法急激ニ進歩發達シ、今日ニ於テハ各種ノ製劑醫療界ニ紹介セラルルモノ多ク、價格ノ低

廉ト相俟ツテ品質モ亦外國品ニ優ルトモ劣ラザルモノ尠カラザルナリ。余ハ最近「ナトロアクトワルサン」及ビ「ネオアクトワルサン」ナル驅微劑ヲ得タリ。此處ニ其ノ臨牀治驗成績ヲ報告シ、實地醫家諸氏ノ御參考ノ一助ニ供セント欲ス。

「ナトロアクトワルサン」ハ日本藥局方「アルゼノベンゾール・ナトリウム」ニシテ



ナル構造式ヲ有シ、「ネオアクトワルサン」ハ日本藥局方「ネオアルゼノベンゾール」ニシテ



ナル構造式ヲ有ス。共ニ日本曹達株式會社ノ製造ニカカル純國産砒素驅微劑ニシテ嚴密ナル毒力檢定竝ニ臨牀試驗ヲ行ヒ日本藥局方ノ品質檢定ニ合格セルモノナリ。

第2章 統計的觀察

第1節 微毒各期及ビ注射總量ト微毒血清反應ノ消長トノ關係

驅微劑ト微毒血清反應ノ消長トノ關係即チ驅微劑ノ效力ヲ推定スルノ實ニ複雑ニシテ早期微毒症治療ニ對シテ鋭敏ニシテ晚期ニ至ル程治療效果ノ少クナルハ既明ノ事實ナリ。此爲ニ余ハ「兩アクトワルサン」ノ臨牀應用例ヲ3期ニ分チ且其ノ中ニ期ノ不明ナルモノヲ更ニ別記セリ。尙ホ餘リニ小量用ヒシモノハ治療效果ノ明カナラザル爲ニ

此處ニハ1.0g以上ヲ用ヒシモノノミヲ記シ、又血清反應トノ關係明カナルモノノミ、即チ注射前後ニ於テ血清反應ヲ検査セルモノノミヲ記セリ。而シテ注射ニ際シテハ心臟及ビ肺臟ヲ先ヅ十分ニ検査シ、次デ尿中蛋白、糖、「ウロビリソ」等ヲ検査シ、然後稀釋法ヲ用ヒテ注射セリ。治療中ハ多數例

ニ於テ着鉛劑ヲ併用セリ。斯クシテ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

第1項 「ナトロアクトワルサン」ニ就テ

1) 第1期徽毒 (第1表参照)

第 1 表

血清反應	變化ナキモノ				輕快セルモノ				陰性トナレルモノ				
	g 數	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上
症 例 數	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
計	0				3				0				

第1表ノ示セル如ク血清反應ノ輕快セルモノ3

ノヲ見ズ。

例ヲ見、變化セザルモノ及ビ全ク陰性トナレルモ

2) 第2期徽毒 (第2表参照)

第 2 表

血清反應	變化ナキモノ				輕快セルモノ				陰性トナレルモノ			
	g 數	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4
症 例 數	0	0	1	0	0	1	1	1	3	0	0	1
計	1				3				4			

第2表ノ示セル如ク血清反應全ク陰性化セルモ

變化ナキモノ1例ヲ得タリ。

ノ4例、血清反應輕快セルモノ3例、血清反應ニ

3) 第3期徽毒 (第3表参照)

第 3 表

血清反應	變化ナキモノ				輕快セルモノ				陰性トナレルモノ			
	g 數	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4
症 例 數	2	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0
計	2				4				0			

第3表ノ示セル如ク血清反應輕快セルモノ4例、

ノヲ見ズ。

變化ナキモノ2例ヲ見、血清反應陰性トナレルモ

4) 期ノ不明ナル徽毒 (第4表参照)

第 4 表

血清反應	變化ナキモノ				輕快セルモノ				陰性トナレルモノ			
	g 數	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4
症 例 數	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0
計	0				2				1			

第4表ノ示セル如ク血清反應陰性トナレルモノ1例、輕快セルモノ2例ヲ見、變化セザルモノヲ見ズ。

上記ノ如ク1.0g以上ノ「ナトロアクチワルサン」ヲ用ヒ注射ノ前後ニ於テ微毒血清反應ノ明カ

ナル各期ノ總例數20例ニ於テ、血清反應ニ變化ナキモノ3例ニシテ、輕快セルモノ12例、全ク陰性トナレルモノ5例ナリ。

第2項「ネオアクチワルサン」ニ就テ

1) 第1期微毒 (第5表參照)

第 5 表

血清反應	變化ナキモノ				輕快セルモノ				陰性トナレルモノ				
	g 數	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上
症 例 數	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
計	0				0				2				

第5表ノ示セル如ク血清反應陰性トナレルモノ2例ヲ見、輕快セルモノ及ビ變化ナキモノヲ見ズ。尙ホ硬性下疳及ビ混合下疳ニシテ最初ヨリ血清反應陰性ニシテ、陰性期治療中陽性トナリシコト無

キ3例ヲ見タリ。即チ頓挫療法ノ意味ニ於テ使用セルモノニシテ「ネオアクチワルサン」ト併用シテ局所療法ヲ用ヒタルガ其ノ結果ハ第6表ノ如シ (第6表參照)

第 6 表

症 例	診 斷	注射回數	使用g數	治 療 結 果
1	硬 性 下 疳	2	0.6	下 疳 全 治
2	混 合 下 疳	2	0.9	下 疳 全 治
3	混 合 下 疳	5	2.1	4 箇ノ潰瘍中 3 箇ハ完全ニ治シ I 箇ハ蠶豆大ノ軟性ノ潰瘍ヲ殘ス

2) 第2期微毒 (第7表參照)

第 7 表

血清反應	變化ナキモノ				輕快セルモノ				陰性トナレルモノ			
	g 數	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4
症 例 數	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1
計	0				2				2			

第7表ニ示セル如ク血清反應陰性トナレルモノ2例、輕快セルモノ2例ヲ見、變化ナキモノヲ見

ズ。

3) 第3期微毒 (第8表參照)

第 8 表

血清反應	變化ナキモノ				輕快セルモノ				陰性トナレルモノ			
	g 數	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4
症 例 數	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0
計	1				2				0			

第8表ノ示セル如ク血清反應輕快セルモノ2 例、變化ナキモノ1例、陰性トナレルモノヲ見

第 9 表

血清反應	變化ナキモノ				輕快セルモノ				陰性トナレルモノ				
	g 數	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上	1-2	2-3	3-4	4以上
症 例 數	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	0				1				0				

第9表ノ示セル如ク血清反應輕快セルモノ1例ヲ見、其ノ他ヲ見ズ。

上記ノ如ク1.0g以上ノ「ネオアクトワルサン」ヲ用ヒ注射ノ前後ニ於テ毒血清反應ノ明カナル各期ノ總例數10例ニ於テ血清反應ニ變化ナキモノ1例、輕快セルモノ5例、陰性トナレルモノ4例ナリ。又頓挫療法ノ成功セリト思ハレタルモノ3例ヲ見タリ。

附記。上記表中血清反應變化ナキモノ、輕快セルモノ、陰性トナレルモノ、トアルハ Browning 反應(以下B.ト略記ス)ニ全ク變化ナキモノヲ血清反應變化ナキモノトシ、Browning, 村田, マイニツケ第2血清反應ノ3法共ニ陰性トナレルモノヲ血清反應陰性トナレルモノトシ、其ノ他ノモノヲ血清反應輕快セルモノトセリ。

## 第2節 副作用ニ就テ

Salvarsan 劑ノ應用ニ際シテ最モ大切ナルハ治效大ニシテ且副作用ノ少ナキ事ナリ。故ニ其ノ製品ハ純粹ナルモノニシテ嚴密ナル毒力検査ヲ必要トス。然レドモ Salvarsan 劑注射ニ際シテ生ズル副作用ハ總テ其ノ Salvarsan 劑ニ歸シ得ベキモノニハ有ラズシテ注射ノ際ニ用ヒラルベキ蒸留水、食鹽水、注射用器ノ消毒、注射時間ノ不適當ナル事等ニ其ノ責任ノ一部存スベキハ疑ナシ。是レ「カリウム鹽」、「マグネシウム鹽」、大腸菌、綠膿菌等ハ Salvarsan 劑ノ毒力ヲ増加スル事ハ Gonder 等

ズ。4) 期ノ不明ナル微毒(第9表參照)

ノ既ニ實驗セル所ニシテ之等ハ水道水中ニ含マレ又硝子器等ノ煮沸滅菌時ニモ混入スルモノナリ。又 Salvarsan 劑ハ速ニ酸化サレ易キモノニシテ其ノ酸化物ハ毒力強シト云ハレテ居ル。其ノ他注射液ノ温度、濃度及ビ其ノ他ノ種々ナル原因ニヨツテモ種々ナル副作用ヲ生ズベキハ考ヘラルル所ナリ。余ノ「ナトロ」及「ネオ」兩「アクトワルサン」ノ臨牀例中ノ副作用ニ就テ述ブレバ次ノ如シ。尙ホ治療中多クハ蒼鉛劑ヲ併用セリ。

## 第1項 「ナトロアクトワルサン」ニ就テ

1) 注射人員33名ニ就テ各人の副作用ヲ調べレバ第10表ノ如シ(第10表參照)。副作用ハ初回ノ注射ニ際シテ多ク見ラレ、又同一人ニシテ各注射毎ニ殆ド必ラズ副作用ヲ見タルモノ有リ。

第 1 0 表

副作用	人 員	計
無キモノ	16 (48.5%)	33
有リシモノ	17 (51.5%)	

2) 注射回數188回ニ就テ副作用ヲ調べレバ第11表ノ如シ(第11表參照)

第 1 1 表

副作用	回 數	計
無キモノ	148 (78.7%)	188
有リシモノ	40 (21.3%)	

3) 副作用ノ種類ヲ區別スレバ第12表ノ如シ

(第12表参照)之等ノ副作用ハ何レモ軽度ノモノニシテ發熱ハ38.0°C以上トナリタルハ唯2回ノミニシテ又副作用ノ爲ニ特ニ醫師ノ手ヲ煩ハシタルガ如キモノヲ見ズ。

第 1 2 表

頭痛	發熱	悪寒	倦怠感	嘔吐	嘔氣	下痢	發汗	息切れ	呼吸困難	手ノ「ビリビリ」感
10	12	2	4	1	2	3	1	2	1	2

4) 注射前ニ尿中ニ蛋白ヲ認メズ治療中ニ尿中ニ蛋白ノ發現セルモノ3名ヲ見タリ。併シ之ハ他ノ併用劑例ヘバ蒼鉛劑注射ノ爲ナルカ否カハ不明ナリ。

4) 注射前ニ尿中ニ蛋白ヲ認メズ、治療中ニ蛋白ノ發現セルモノヲ本例ニ於テモ3例ヲ見タリ。然レトモ之ハ他ノ併用劑例ヘバ蒼鉛劑注射ノ爲ナルカ否カ不明ナリ。

第2項「ネオアクチワルサン」ニ就テ

1) 注射人員31名ニ就テ各人的副作用ヲ調べ第13表ノ如シ(第13表参照)。副作用ハ初回ノ注射ニ際シテ多ク見ラレ又同一人ニシテ各注射毎ニ殆ド必ズ副作用ヲ見タルモノ有リ。

第 1 3 表

副作用	人員	計
無キモノ	11(45.1%)	31
有リシモノ	17(54.9%)	

2) 注射回数203回ニ就テ副作用ヲ調べ第14表ノ如シ(第14表参照)

第 1 4 表

副作用	回数	計
無キモノ	165(86.2%)	203
有リシモノ	38(13.8%)	

3) 副作用ノ種類ヲ區別スレバ第15表ノ如シ(第15表参照)。發熱ハ38°C以上トナリタルハ10回ニシテ、又副作用ノ爲ニ特ニ醫師ノ手ヲ煩ハシタルガ如キモノヲ見ズ。

第 1 5 表

頭痛	發熱	悪寒	倦怠感	嘔吐	嘔氣
9	20	1	6	1	1

### 第3章 症例

第1節「ナトロアクチワルサン」ニ就テ

第1例 佐○某, 男, 41歳, 材木商, 初診昭和13年2月14日

診断 硬性下疳兼急性淋菌性尿道炎

症状 完全包莖ニシテ手術的ニ龜頭ヲ露出セルニ外尿道孔下部ニ1箇ノ示指頭大及ビ下部陰莖皮膚腐ニ2箇ノ半示指頭大ノ硬キ潰瘍アリ, 外尿道孔ヨリノ膿中ニハ多數ノ淋菌ヲ認メタリ。體重58kg, 心臓及ビ肺臓正常, 尿中蛋白, 糖, 「ウロビリリン」ナシ。

経過 2月14日B.(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅), 同日「ナトロ」0.3g注射, 其ノ後1週間ニ2回宛「ナトロ」0.45gヲ注射ス。第3回目ノ注射即チ注射總量1.2gノ後ニハ潰瘍ハ非常ニ小サクナリ硬サモ著シク減少セリ。2月28日第4回目ノ注射後即チ總量1.65gノ後B.(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅)トナリ, 尿モ亦I=II(-)トナリ僅ニ2-3ノ淋絲ヲ認ムルノミナリ。3月3日第5回ノ注射後即チ注射總量2.1gノ後ニハB.(十), 村田(卅), M.K.R.II(卅)トナリ下疳ハ全治セリ。其ノ後0.45gヲ1回注射シ治療ヲ中止セリ。副作用ヲ全然認メズ。本例ヘ「ミラノイエン」6回總計12ccヲ併用セリ。

第 16 表 (「ナトロアクテワルサン」)

症 例	性 及 ビ 性	年 齡	職 業	診 斷	經 過		併用劑	副作用
					g 數	血清反應及ビ其ノ他		
1	佐 ○ 某 男	41	商	硬性下疳 急性尿道炎	1.65 2.1	B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅) B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅) B(+), 村田(卅), M.K.R.II(卅) 下疳全治	ミ ラ ノ イ エ ン 12 cc	ナシ
2	武 ○ 某 男	21	職 工	硬性下疳 丘疹性繼毒疹	0.75 1.5 1.95	B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅) 發疹ハ吸收セラル B(±), 村田(-), M.K.R.II(-) B(-), 村田(-), M.K.R.II(-)	ミ ラ ノ イ エ ン 14 cc	ナシ
3	小 ○ 某 男	38	會 社 員	丘疹性繼毒疹	0.75 2.1 2.55	B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅) B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅) 發疹ハ吸收セラル B(-), 村田(-), M.K.R.II(+)	ミ ラ ノ イ エ ン 20 cc	嘔氣 1 回
4	本 ○ 某 女	23	無	第 2 期潜伏繼毒	0.6 1.5 1.8	B(+), 村田(+), M.K.R.II(卅) B(-), 村田(-), M.K.R.II(±) B(-), 村田(-), M.K.R.II(-) B(-), 村田(-), M.K.R.II(-)	ミ ラ ノ イ エ ン 24 cc	頭痛 4 回 惡寒 1 回
5	藤 ○ 某 男	41	農	第 2 期潜伏繼毒	0.75 1.65 3.15	B(±), 村田(+), M.K.R.II(+) B(-), 村田(+), M.K.R.II(-) B(-), 村田(-), M.K.R.II(-) B(-), 村田(-), M.K.R.II(-)	ミ ラ ノ イ エ ン 10 cc	ナシ
6	長 ○ 某 男	35	無	第 2 期潜伏繼毒	2.1 3.9 5.1	B(+), 村田(卅), M.K.R.II(卅) B(+), 村田(+), M.K.R.II(卅) B(+), 村田(+), M.K.R.II(卅) B(-), 村田(-), M.K.R.II(+)	ミ ラ ノ イ エ ン 28 cc	發熱 2 回 (「ナトロ」 及ビ「ネオ」 ヲ併用ス)
7	北 ○ 某 男	24	石 工	第 3 期潜伏繼毒	1.05 2.10 3.15	B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅) B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅) B(+), 村田(卅), M.K.R.II(卅) B(±), 村田(卅), M.K.R.II(卅)	ミ ラ ノ イ エ ン 24 cc	嘔吐 嘔心 全身倦怠感
8	金 ○ 某 女	35	無	第 3 期潜伏繼毒	1.05 1.65 3.45 4.35	B(+), 村田(+), M.K.R.II(卅) B(±), 村田(+), M.K.R.II(卅) B(+), 村田(+), M.K.R.II(卅) B(-), 村田(+), M.K.R.II(+) B(±), 村田(+), M.K.R.II(+)	シ フ ロ ー ゼ 13 回	蛋白出現

第2例 武〇某, 男, 21歳, 職工, 初診昭和12年7月26日

診断 頑性下疳兼丘疹性微毒疹

症状 外尿道孔=無痛性半月形ノ潰瘍アリ。陰囊ニハ10錢銀貨大ノ扁平浸潤及ビ蠶豆大ノ數箇數ノ丘疹アリ。皮下各所ノ淋巴腺ハ腫脹シ左側扁桃腺ハ非常ニ大キクナツテ居ル。8月26日B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅)

経過 8月26日ヨリ「ナトロ」ノ注射ヲ初ム, 注射2回總量0.75gニテ8月4日發疹ハ全ク吸收セラレ, 注射4回總量1.5gニテ9月4日ニハB.(±), 村田(-), M.K.R.II(-)トナリ, 注射5回總量1.95gニテ9月13日B(-), 村田(-), M.K.R.II(-)トナリタリ。患者ハ其ノ後2回ノ注射ヲ受ク。「ミラノイエン」7回總量14ccヲ併用セリ。副作用ヲ全ク認メズ。體重45.5kg, 心臟及ビ肺臟正常ニシテ尿中蛋白, 糖, 「ウロビリソ」ヲ認メズ。

第3例 小〇某, 男, 38歳, 會社員, 初診昭和13年1月13日

診断 丘疹狀微毒疹

症状 約19箇月前ニ陰莖=無痛性潰瘍アリ。胴, 上胸部ニ粟粒大ヨリ蠶豆大迄ノ銅紅色ノ發疹アリ。1月21日B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅)

経過 1月27日ヨリ「ナトロ」ノ注射ヲ始ム。注射2回總量0.75gノ後ニ2月7日B.(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅)トナリ, 注射3回總量1.2gノ後2月9日ニハ發疹ハ吸收セララル傾向ヲ示シ銅紅色モ亦褪色ス。注射5回總量2.1gノ後2月19日於テハ發疹ハ殆ド吸收セラレタリ。其ノ後1回ノ注射ヲ受ケ全量2.55gニ達セルニ發疹ハ既ニ全ク存セズB(-), 村田(-), M.K.R.II(+))トナリシガ其ノ後治療ヲ中止セリ。本例ハ「ミラノイエン」10回總計20ccヲ併用ス。副作用トシテハ嘔氣1回アリシノミナリ。體重70kg, 心臟及ビ肺臟

正常ニシテ尿中蛋白, 糖, 「ウロビリソ」ヲ認メザリキ。

第4例 本〇某, 女, 23歳, 無職, 初診昭和13年1月24日

診断 第2期潜伏微毒

症状 1箇月前ヨリ頭頂部脱毛及ビ頭痛アリ, 1月24日B.(+), 村田(+), M.K.R.II(卅), 其ノ他特別ノ症状ナシ。體重64kg, 心臟及ビ肺臟正常, 尿中蛋白及ビ糖, 「ウロビリソ」ヲ見ズ。

経過 1月27日ヨリ「ナトロ」ノ注射ヲ始ム。2月9日注射2回總量0.6gニテB.(-), 村田(-), M.K.R.II(±), 2月23日注射5回總量1.5gノ後B(-), 村田(-), M.K.R.II(-), 其ノ後1回0.3gノ注射ヲ受ケ3月23日B.(-), 村田(-), M.K.R.II(-)ナリ。本例ニハ「ミラノイエン」12回總量24ccヲ併用セリ。副作用トシテハ初メノ4回共ニ頭痛アリ, 特ニ第2回目ノ注射ノ後ニハ惡寒アリタリ。

第5例 藤〇某, 男, 41歳, 農業, 初診昭和12年7月13日

診断 第2期潜伏微毒

症状 7月13日B(±), 村田(+)), M.K.R.II(+), 皮下淋巴腺腫脹ナク, 口腔及ビ咽頭正常ナリ。體重47.5kg, 心臟及ビ肺臟正常, 尿中蛋白, 糖, 「ウロビリソ」ヲ見ズ。

経過 7月13日ヨリ「ナトロ」ノ注射ヲ初ム, 注射2回總量0.75gニテ7月29日B(-), 村田(+), M.K.R.II(-)トナリ, 4回總量1.65gニテ8月9日ニハB(-), 村田(-), M.K.R.II(-)トナリタリ, 患者ハ其ノ後7回總量3.75gノ注射ヲ受ケタル12月29日ニ於テモヤハリB(-), 村田(-), M.K.R.II(-)ナリ。本例ニハ「ミラノイエン」5回總量10ccヲ併用セリ。副作用ヲ全ク認メズ。



第6例 長○某, 男, 35歳, 無職, 初診昭和  
12年8月23日

診断 第2期潜伏梅毒

症状 8月23日B(+), 村田(卅), M.K.R.II  
(卅), 其ノ他特別ノ症状ナク, 體重50kg, 心臓及  
ビ肺臓正常, 蛋白, 糖, 「ウロビリソ」ヲ尿中ニ見  
ズ.

経過 8月23日ヨリ「ナトロ」ノ注射ヲ始ム,  
11月1日注射6回總量2.1gノ後ニB(+), 村田  
(+), M.K.R.II(卅), 其ノ後「ナトロ」1回0.45g  
ヲ注射セル後「ネオ」ノ注射ヲ始メ12月20日注射  
10回「ナトロ」2.55g, 「ネオ」1.35gノ後B(+),  
村田(+), M.K.R.II(卅)トナリ, 1月17日注射  
12回「ナトロ」2.55g, 「ネオ」2.55gニテB(-),  
村田(-), M.K.R.II(+)トナリタリ. 其ノ後「ナ  
トロ」2回1.2gノ注射ヲ受ケタル後一時治療ヲ中  
止セリ. 本例ハ「ミラノイエン」14回總量28ccヲ  
併用セリ. 副作用トシテハ最初ノ2回共發熱アリ,  
特ニ第2回目ニハ38.3°Cアリタリ.

第7例 北○某, 男, 24歳, 石工, 初診昭和  
13年1月19日

診断 第3期潜伏梅毒

症状 1月19日B(卅), 村田(卅), M.K.R.II  
(卅), 其ノ他特記スベキ症状ナシ. 體重53.7kg,  
心臓及ビ肺臓正常, 尿中蛋白, 糖, 「ウロビリソ」  
ヲ見ズ.

経過 1月24日ヨリ「ナトロ」ノ注射ヲ始ム,  
2月8日注射3回1.05gニテB(卅), 村田(卅),  
M.K.R.II(卅), 3月3日注射6回總量2.10gニテ  
B(+), 村田(卅), M.K.R.II(卅), 3月24日注射  
9回3.15gニテB(±), 村田(卅), M.K.R.II(卅),  
其ノ後2回ノ注射ヲ受ケ總量3.75gニ達シ一時中  
止セリ. 本例ニハ「ミラノイエン」12回總量24cc  
ヲ併用セリ. 副作用トシテハ3月12日「ナトロ」  
8回2.85g「ミラノイエン」11回ノ後ニ尿中ニ僅少

ノ蛋白ノ出現ヲ見, 其ノ他嘔吐, 嘔心, 全身倦怠  
感アリ.

第8例 金○某, 女, 35歳, 無職, 初診昭和  
13年2月7日

診断 第3期潜伏梅毒

症状 2月7日B(+), 村田(+), M.K.R.II  
(卅), 其ノ他特記スベキ症状ナク, 體重54.5kg,  
心臓及ビ肺臓正常, 蛋白, 糖, 「ウロビリソ」ヲ尿  
中ニ見ズ.

経過 2月10日ヨリ「ナトロ」ノ注射ヲ始ム,  
3月2日注射3回總量1.05gノ後ニB(±), 村田  
(卅), M.K.R.II(卅), 3月16日注射5回總量1.65g  
ノ後ニハB(+), 村田(+), M.K.R.II(卅), 4月  
7日注射9回總量3.45gノ後ニB(-), 村田(+),  
M.K.R.II(+), 4月18日注射11回4.35gノ後ニ  
B(±), 村田(+), M.K.R.II(+), 其ノ後2回  
0.9gノ注射ヲ受ケ現在通院中ナリ. 治療中ニ「シ  
フロゼ」13回總量13ccヲ併用ス. 副作用トシテ  
ハ3月16日注射5回1.65gノ「ナトロ」及ビ「シフ  
ローゼ」6回ノ後ニ僅カ尿中ニ蛋白ノ出現ヲ見タ  
リ.

第2節 「ネオアクトワルサン」ニ就テ

第1例 阿○某, 男, 27歳, 農業, 初診昭和  
13年1月20日

診断 硬性下疳

症状 完全包莖ニシテ外尿道孔ヨリハ血漿性ノ  
水溶液ヲ漏出ス. 陰莖皮膚ヲ背面ニ於テ切開シタ  
ルニ外尿道孔ノ下部及ビ下部冠狀溝, 下部陰莖皮  
膚ニ4箇ノ指示頭大ノ硬キ潰瘍アリ. 左右鼠蹊腺  
ハ無痛性ニ腫脹シ硬シ. 體重67.1kg, 心臓及ビ肺  
臓正常, 尿中蛋白, 糖, 「ウロビリソ」ヲ見ズ.

経過 1月20日B(+), 村田(卅), M.K.R.II  
(卅), 1月21日「ネオ」0.45gヲ注射ス. 1月25日  
B(卅), 村田(卅), M.K.R.II(卅), 同日「ネオ」0.6g

第 17 表 (「ネオアクチワルサン」)

症例	性及び性	年齢	職業	診 断	經 過		併用薬	副作用
					g 数	血清反應及ビ其ノ他		
1	阿○某男	27	農	硬性下疳 (龜頭=4箇アリ)	1.65 2.85 5.85 6.45	B.(+), 村田(卅), M.K.R. II(卅) 下疳へ非常=縮少ス B.(±), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(−), 村田(−), M.K.R. II(±) B.(−), 村田(−), M.K.R. II(−) 下疳へ完全=治セリ	「ミラノイエン」 <sup>24</sup> cc	發熱 1 回
2	内○某男	40	商	第 2 期潜伏梅毒 兼脂漏性濕疹	0.3 0.75	B.(−), 村田(±), M.K.R. II(卅) B.(−), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(−), 村田(+), M.K.R. II(−)	「エン」 <sup>1</sup> 回 「ミラノイ」	ナシ
3	藤○某女	33	無	第 2 期潜伏梅毒	0.9 1.8 2.15 5.05	B.(±), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(卅), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(+), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(−), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(−), 村田(±), M.K.R. II(±)	「チオピス」 <sup>11</sup> 回	發熱 5 回
4	藤○某男	37	鐵道員	第 2 期潜伏梅毒	0.6 1.8 4.05 6.45	B.(−), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(卅), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(−), 村田(−), M.K.R. II(+) B.(−), 村田(+), M.K.R. II(±) B.(−), 村田(−), M.K.R. II(±)	「チオピス」 <sup>4</sup> 回 「サンピス」 <sup>17</sup> 回	發熱及ビ頭痛數回
5	西○某男	31	料理業	第 2 期潜伏梅毒	1.2 4.0 5.35 7.60	B.(卅), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(卅), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(+), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(+), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(−), 村田(+), M.K.R. II(卅)	「ミラノイエン」 <sup>16</sup> 回	尿中蛋白出現 頭痛 2 回
6	中○某女	37	女工	第 3 期潜伏梅毒	1.2 2.1 5.25	B.(+), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(+), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(+), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(+), 村田(+), M.K.R. II(+)	「エン」 <sup>13</sup> 回 「ミラノイ」	輕倦怠感 1 回
7	片○某男	43	無	第 3 期潜伏梅毒	2.4 6.0 7.2 8.1 9.3	B.(卅), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(卅), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(卅), 村田(卅), M.K.R. II(卅) 左上下肢ノ運動障碍ナクナル B.(+), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(−), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(+), 村田(+), M.K.R. II(卅)	「チオピス」 <sup>6</sup> 回 「サンピス」 <sup>13</sup> 回	ナシ
8	金某男	33	製米	第 3 期潜伏梅毒	0.6 1.5 4.5 6.3 9.3 11.1	B.(−), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(卅), 村田(卅), M.K.R. II(卅) B.(+), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(±), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(±), 村田(+), M.K.R. II(卅) B.(±), 村田(±), M.K.R. II(+) B.(+), 村田(±), M.K.R. II(卅)	「シフロイエン」 <sup>10</sup> 回 「ミラノイ」 <sup>7</sup> 回	輕倦怠感 2 回

注射、其ノ後4日間毎「ネオ」0.6gヲ注射ス。第3回目ノ注射(1.65g)ノ後硬性下疳ハ目ニ見エテ良クナリ、2月6日B(±)、村田(+), M.K.R.II(卅)、2月16日B(±)、村田(+), M.K.R.II(+), 3月9日B(-), 村田(-), M.K.R.II(±)、3月15日B(-), 村田(-), M.K.R.II(-), 即チ「ネオ」ノ注射11回6.45gニテ硬性下疳ハ完全ニ治リ、血清反應ハ3法共ニ陰性トナリタリ。其ノ後「ネオ」0.6gヲ1回注射ス。本例ハ「ミラノイエン」12回、總量24ccヲ併用セリ。副作用トシテハ第1回目ニ38.5°C發熱セリ。

第2例 内○某, 男, 40歳, 商業, 初診昭和12年10月5日

診斷 第2期潜伏梅毒兼脂漏性濕疹

症狀 約2年半前ニ陰莖ニ潰瘍ヲ生ズ。當時Salvarsan劑2回ノ注射ヲ受ケタリ。現在外見上何等變化ヲ認メズ。11月17日B(-), 村田(±), M.K.R.II(+), 當時外來ヲ訪レタル時ニハ脂漏性濕疹ノ症狀ヲ呈ス。

經過 11月17日迄脂漏性濕疹ノ治療ヲ受ク。11月20日ヨリ「ネオ」ノ注射ヲ受ク。11月22日注射1回0.3gノ後B(-), 村田(+), M.K.R.II(+), 1月7日注射2回總量0.75gノ後B(-), 村田(-), M.K.R.II(-)トナリタリ。其ノ後患者ハ注射2回總量1.2gノ注射ヲ受ク、其ノ間「チオビス」3回、「ミラノイエン」1回ヲ併用セリ。副作用ハ何等認メズ。

第3例 藤○某, 女, 33歳, 無職, 初診昭和12年11月2日

診斷 第2期潜伏梅毒

症狀 自覺的及ビ外見上何等ノ變化ヲ見ズ。第4例ノ妻ニシテ、11月2日B(±)、村田(+), M.K.R.II(+), 體重48.5kg, 心臓及ビ肺臓正常、尿中蛋白、糖、「ウロビリソ」ナシ。

經過 11月6日ヨリ「ネオ」ノ注射ヲ始ム。11

月15日注射2回總量0.9gノ後B(+), 村田(卅), M.K.R.II(卅), 12月1日注射4回總量1.8gノ後B(+), 村田(+), M.K.R.II(+), 1月12日注射8回總量2.15gノ後B(-), 村田(+), M.K.R.II(+), 2月21日注射15回總量4.3gノ後B(-), 村田(±), M.K.R.II(-), 3月11日注射17回總量5.05gノ後B(-), 村田(±), M.K.R.II(±), 治療中「ミラノイエン」10回、「チオビス」11回ヲ併用ス。副作用トシテハ35°Cヨリ39°Cノ間ノ發熱5回ヲ見ル。

第4例 藤○某, 男, 37歳, 鐵道員, 初診昭和12年11月2日

診斷 第2期潜伏梅毒

症狀 左右腋窩, 兩鼠蹊淋腺ノ無痛性腫脹アリ。11月2日B(-), 村田(卅), M.K.R.II(+)

經過 11月5日ヨリ「ネオ」ノ注射ヲ始ム。11月16日注射2回0.6gノ後B(+), 村田(+), M.K.R.II(+), 11月24日注射3回0.9gノ後B(+), 村田(+), M.K.R.II(+), 12月8日注射5回總量1.8gノ後ニハB(-), 村田(-), M.K.R.II(+), 1月22日注射10回4.05gノ後B(-), 村田(+), M.K.R.II(±), 2月14日注射13回總量5.85gノ後B(-), 村田(-), M.K.R.II(+), 2月28日注射14回6.45gノ後B(-), 村田(-), M.K.R.II(±)トナリ、其ノ後2回1.2gノ注射ヲ受ク。本例ハ「サンビス」4回、「チオビス」17回ヲ併用セリ。副作用トシテハ輕度ノ發熱及ビ輕度ノ頭痛ヲ來セルコト數回アリ。

第5例 西○某, 男, 31歳, 料理業, 初診昭和12年11月24日

診斷 第2期潜伏梅毒

症狀 昨年2月頃陰莖冠狀溝ニ潰瘍アリ。當時Salvarsan劑ヲ5回注射セルモ頭頂部ノ脱毛強クナル。外見上特別ナル變化ヲ認メザルモ11月24日B(+), 村田(卅), M.K.R.II(+), 體重53.7kg,

心臓及ビ肺臓正常，尿中蛋白，糖，「ウロピリン」ナシ。

経過 11月26日ヨリ「ネオ」ノ注射ヲ始ム。12月20日注射4回1.2gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，2月1日注射8回總量4.0gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，2月21日注射11回總量5.35gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，3月23日注射15回總量7.15gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，4月8日注射16回總量7.6gノ後ニハB(-)，村田(+)，M.K.R.II(+)トナリタリ。治療中「ミラノイエン」16回ヲ併用ス。副作用トシテハ15回目ノ注射ノ後ニ尿中軽度ノ蛋白出現ヲ見タリ。其ノ他2回軽度ノ頭痛ヲ見タリ。

第6例 中〇某，女，37歳，女工，初診昭和13年1月31日

診断 第3期潜伏梅毒

症状 自覺及ビ他覺的症狀等何等ナシ。1月31日B(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，體重46.1g，心臓及ビ肺臓正常，尿中蛋白，糖，「ウロピリン」ヲ見ズ。

経過 2月4日ヨリ「ネオ」ノ注射ヲ始ム。2月19日注射3回總量1.2gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，3月1日注射5回總量2.1gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，4月13日注射12回總量5.25gノ後B(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)ナリ。治療中「ミラノイエン」13回ヲ併用ス。副作用トシテハ1回軽度ノ倦怠感ヲ來セルノミ。

第7例 片〇某，男，43歳，無職，初診昭和12年10月20日

診断 第3期潜伏梅毒

症状 約20年前ニ陰莖ニ潰瘍アリ。本月12日ヨリ左側上下肢ノ運動障礙アリ。10月20日B(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，體重49.2kg，心臓及ビ

肺臓正常，尿中蛋白，糖，「ウロピリン」ヲ見ズ。

経過 10月25日ヨリ「ネオ」ノ注射ヲ始ム。12月6日注射5回2.4gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，1月19日注射11回6.0gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，2月2日注射13回總量7.2gノ後ニハ左側上下肢ノ運動障礙ニ全ク無クナツタガ同所ノ冷感ヲ殘ス。B(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，2月23日注射16回總量8.1gノ後ニハB(-)，村田(+)，M.K.R.II(+)，3月23日注射20回總量9.3gノ後B(+)，村田(+)；M.K.R.II(+)ナリ。其ノ後患者ハ2回總量0.6gノ注射ヲ受ク。治療中「サンピス」6回，「チオビス」13回ヲ受ク。副作用ヲ全ク認メズ。

第8例 金某，男，製米業，初診昭和12年11月2日

診断 第3期潜伏梅毒

症状 患者ハ33歳ニシテ，約9年前ニ陰莖ニ潰瘍アリ。Salvarsan劑ノ注射14回ヲ受ケタリ。自覺症狀全クナシ。腋窩腺ノミ腫脹ス。11月2日B(-)，村田(+)，M.K.R.II(+)，體重60.9kg，心臓及ビ肺臓正常，尿中蛋白，糖，「ウロピリン」ヲ見ズ。

経過 11月5日ヨリ「ネオ」ノ注射ヲ初ム。11月24日注射2回總量0.6gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，12月8日注射4回總量1.5gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，1月7日注射7回總量3.3gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，1月28日注射9回總量4.5gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，2月19日注射12回總量6.3gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，3月7日注射14回總量7.5gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，3月22日注射17回總量9.3gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，4月11日注射20回11.1gノ後ニハB(+)，村田(+)，M.K.R.II(+)，治療中ハ「ミ

ラノイエン」10回、「シフロゼ」7回ヲ併用ス。副作用トシテハ軽度ノ倦怠感ヲ覺エシコト2回アリ。

### 第3節 微毒以外ノ疾患ニ應用セル例

第1例 中○某, 男, 50歳, 機關士, 初診昭和12年11月12日

診断 尋常性乾癬

症状 四肢, 頭部ニ無數ノ粟粒大ヨリ2錢銅貨大ノ密着アル葉狀落屑面アリ。定型的ノ尋常性乾癬ナリ。B(-), 村田(-), M.K.R.II(-), 體重45.5kg, 心臓及ビ肺臓正常, 尿中蛋白, 糖, 「ウロピリン」ヲ見ズ。

経過 11月17日「ネオ」0.3g注射, 其ノ後1週間毎ニ同量ノ注射ヲスルニ, 第3回目ノ後ニ一時發疹ハ増加セルモ次第ニ輕快シ, 2月1日第11回ノ注射即チ總量3.3gノ後ニ發疹ハ全ク吸收セラレ, 其處ニ褐色斑ヲ殘スミトナレリ。其ノ後0.3gヲ1回注射セルニ今日迄ニ再發ナシ。局所ニハ「ピロガロールトラウマチチン」ヲ塗布セリ。副作用ヲ全ク見ズ。

第2例 木○某, 女, 19歳, 女學生, 初診昭和12年3月23日

診断 尋常性乾癬

症状及ビ経過 全身各所ニ粟粒大ヨリ10錢白銅

大ノ定型的ナル尋常性乾癬ヲ生ゼシガ種々ナル療法ニ加フルニ「ネオ」ノ注射ヲ以テセルニ遂ニ全治セリ。

第3例 横○某, 女, 39歳, 農業, 初診昭和12年3月29日

診断 圓盤狀紅斑性狼瘡

症状 顔面, 頭部, 胸部, 前膊ニ定型的ナル圓盤狀紅斑性狼瘡ヲ生ズ。

経過 種々ノ外用藥, 紫外線療法, 「レントゲン」療法等ヲ試ムルモ治癒弗々シカラズ。僅ニ輕快セリト思ハルルノミナリ。4月12日ニB(-), 村田(-), M.K.R.II(±)ナリシモ「ベルビスモール」ノ注射12回ヲ受ケB(-), 村田(-), M.K.R.II(-)トナリ, 其ノ後ハ常ニ3法共ニ陰性ナリ。7月16日ヨリ前法ニ併用シテ「ナトロ」ノ注射ヲ初ム。8月23日注射6回總量1.8gニシテ口唇ノ發疹ハ全クナクナリ, 前膊及ビ顔面ノ發疹モ見違ヘル如ク輕快セルヲ認ム。8月6日, 9月29日共ニ血清反應ハ陰性ナリ。前回ノ注射後約3箇月間注射ヲ中止セルニ新ラシキ結節形成ガ次第ニ鼻尖ニ起リ初メタル爲リ9月15日ヨリ「ネオ」ノ注射ヲ初ム, 其ノ後「ネオ」3回總量0.9g, 「ナトロ」7回總量2.1gニテ發赤ハ全體トシテ非常ニ減退セリ。副作用ハ第1回ノ注射ニ際シテ僅ノ發熱ヲ見タルノミナリ。

第18表 (微毒以外ノ例)

症例	性及ビ性	年齢	職業	診断	経過	併用藥	副作用
1	中○某 男	50	機關士	尋常性乾癬	B(-), 村田(-), M.K.R.II(-) 0.9gノ注射ニテ發疹増大セルモ次第ニ輕快ス。3.3gニテ完全ニ吸收サレ褐色斑ヲ殘スノミ。	ビルチ ロトチ ガラソ ロウ イマ	ナシ
2	木○某 女	19	學生	尋常性乾癬	B(-), 村田(-), M.K.R.II(-) 種々ナル療法ニ加フルニ「ネオ」ノ注射ニヨリテ全治セリ。		
3	横○某 女	39	農	圓盤狀紅斑性 狼瘡	1.8gニテ口唇ノ發疹ナクナリ其ノ他モ非常ニ輕快ス。其ノ後3箇月注射ヲ休ミシニ新發疹鼻尖ニ起リタル爲リ「ネオ」0.9g, 「ナトロ」2.1gヲ注射セルニ發赤ハ全體トシテ非常ニ輕快セリ。		輕發熱1回

## 第4章 總括

總テ藥品特ニ注射藥ハ其ノ效力顯著ニシテ副作用ナク且使用ニ便ニシテ、而モ其ノ價ノ廉ナルヲ要ス。「ナトロアクチワルサン」及ビ「ネオアクチワルサン」ハ其ノ使用ニ際シテ極メテ良ク蒸溜水ニ溶解シ、用ニ臨ミ直チニ使用シ得ルヲ以テ特ニ稀釋法ヲ應用スルニ際シテ便利ナリ。又本劑ハ純國産品ニシテ原料藥品ノ殆ド大部分ヲ自給自足シ得ルヲ以テ製品ノ原價ハ極メテ低廉ナリ。

其ノ效力ヲ案ズルニ第1期徽毒ニアリテハ第1表ノ示セル如ク、「ナトロアクチワルサン」ハ僅ニ1—2gノ注射ニ依リテ1例、2—3gノ注射ニヨリテ2例ノ輕快セル例ヲ見、之等ニ於テハ更ニ數回ノ治療ヲ加フレバ必ラズ血清反應陰性トナルベキモノト考ヘラル。「ネオアクチワルサン」ハ第5表ノ如ク1—2gノ注射ニテ1例、4g以上ニテ1例ノ血清反應陰性トナリシ例ヲ見タリ。特ニ後者ニ於テハ血清反應陰性トナリタル後ニ更ニ續イテ注射ヲナセル爲4.0gナル價ヲ見タルモノナリ。尙ホ硬性下疳及ビ混合下疳ニシテ最初ヨリ血清反應陰性ニシテ其ノ後ノ經過中全ク陰性ニ止リタル3例ニ就テハ第6表ノ示ス如ク、第1例ノ硬性下疳ニ於テハ僅ニ0.6gニテ下疳ハ全治シ、第2例ノ混合下疳ハ0.9gニテ全治セリ。第3例ノ混合下疳ハ2.1gニテ大半ノ下疳ハ全治シ僅ニ1箇ノ軟性下疳ヲ殘スノミトナリタリ。之等ノ症例ヨリ考フルモ此「兩アクチワルサン」ハ徽毒第1期ニ對シテハ極メテ良效アリシヲ認メラル。第2期徽毒ニ於テハ第2表ノ示セル如ク「ナトロアクチワルサン」ニ於テハ3—4gノ注射ニテハ血清反應

ニ變化ナキモノ1例ヲ見、2—3g、3—4g、4g以上ニ於テ各1例ノ血清反應輕快セルモノヲ見、1—2gニテ3例、4g以上ニ於テ1例ノ血清反應陰性トナル例ヲ見タリ。輕快セル3例ハ更ニ治療ヲ加フル事ニヨツテ全ク陰性トナルベキ可能性ヲ有ス。「ネオアクチワルサン」ハ第7表ノ示セル如ク2—3g、4g以上ニ於テ血清反應全ク陰性トナルモノ各1例ヲ見タリ。此輕快セル2例モ其ノ後ノ治療ニヨリテ全ク陰性トナルベキ可能性ヲ十分ニ有ス。由是觀之、此「兩アクチワルサン」ハ第2期徽毒ニ對シテモ他ノ砒素劑ニ優ルトモ劣ラザル效力ヲ有スルコトヲ認メラル。第3期徽毒ニ於テハ第3表ノ示セル如ク「ナトロアクチワルサン」ニ於テハ1—2gノ注射ニテ血清反應ニ變化ナキモノ2例、1—2g、2—3gニテ各1例、3—4gニテ2例ノ輕快セルモノヲ見タリ。又「ネオアクチワルサン」ニ於テハ第8表ノ示セル如ク4g以上ニテ變化ナキモノ1例及ビ輕快セルモノ2例ヲ見タリ。而シテ第3期徽毒ニ於テハ他ノ砒素劑ト同様其ノ治療ニ長期間ヲ要スル如キ傾向アリ。本例ニ於テハ全ク陰性トナリタルモノヲ見ズ。其ノ治療期間短クシテ完全ナル治療ヲ作シ得ザリシ事ハ不本意ナル所ナリ。「ナトロアクチワルサン」1—2gヲ用ヒタルノミニテ血清反應ニ變化ナキヲ見タルハ理ノ當然ナリ。然ルニ此處ニ「ナトロアクチワルサン」及ビ「ネオアクチワルサン」ヲ合シテ6例ノ輕快者ヲ見、其ノ中ニハ僅少ノ注射量ニテ既ニ血清反應ノ輕快セルヲ見タルハ本劑ノ效力ノ絶大ナルヲ認ムルヲ得可シ。又以上ノ例ヨリシテ「兩アクチワルサン」ノ優劣ヲ定ムル事ハ困難ナル

所ナリ。

副作用ニ就テ考フルニ、其ノ有無ヲ判定スル事ハ非常ニ困難ナル事ニシテ軽度ノ頭痛、發熱、倦怠感其ノ他ハ常人ニ於テモ時ニ見ラルルモノニシテ總テ之等ヲ「各アクチワルサン」注射ニヨル副作用トハ見做シ得ザル場合アルモ本臨牀例ニ於テハ總テ注射後發生セル之等ノ状態ヲ副作用トシテ取扱ヒ、極力微細ニ其ノ有無ヲ檢シタリ。又勿論之等ノ中ニハ同時ニ使用セル蒼鉛劑及ビ注射ニ用ヒル用器、食鹽水其ノ他ニヨル副作用モ混同セルモノト見做サザルベカラズ。故ニ「兩アクチワルサン」ニヨル眞ノ副作用ハ本例ニ示セルヨリ遙カニ僅少ナルベキ事ハ勿論ナリ。而シテ Salvarsan 劑ハ極メテ不安定ナル製劑ニシテ酸化サレ易ク、其ノ酸化物ハ非常ニ毒力ヲ有スルモノナレバ、其ノ製品ノ純粹ナル事最モ必要ニシテ且各製劑毎ニ嚴密ナル毒力検査ヲ必要トシ、使用ニ際シテハ極力短時間内ニ其ノ操作ヲ行フベキナリ。而シテ Salvarsan 療法ハ特ニ早期微毒ニ於テハ強力滅芽療法ヲ理想トスルヲ以テ其ノ製劑ハ純粹ニシテ副作用ノ無キ事ヲ要スルモノナリ。此點ニ於テ本劑ハ日本曹達株式會社ニ於テ製造セラレ、内務省衛生試驗所ニ於テ製造番號毎ニ動物試験ノ行ハレテ居ル事ハ認メテ可ナルベシ。「ナトロアクチワルサン」ニ就テ見ルニ第 10 表ノ示セル如ク注射人員 33 名ニシテ、其ノ中 1 回以上副作用ヲ示セル者 17 名(51.5%)ニシテ、之等ノ人々ニ施行セル注射回数ハ第 11 表ノ示セル如ク總計 188 回ニシテ其ノ中副作用ヲ示セル回数ハ 40 回(21.3%)ナリ。又之等ノ副作用ノ種類ヲ見ルニ第 12 表ノ示セル如クニシ

テ特ニ注意ヲ要スベキモノトシテハ 38°C 以上發熱セル者ヲ僅ニ 2 回見タリ。然ルニ之ハ呼吸困難、嘔吐各 1 回、下痢 3 回其ノ他ト共ニ總テ醫師ノ手ヲ煩ハサザル程度ノモノニシテ特ニ重大ト思ハルル副作用ヲ見ズ。又晩發性ノ副作用ヲモ見ザリキ。「ネオアクチワルサン」ニ就テハ第 13 表ノ示セル如ク注射人員 31 名ニシテ、其ノ中 1 回以上副作用ヲ示セルモノ 17 名(54.9%)ニシテ、之等ノ人々ニ施行セル注射回数ハ第 14 表ノ示セル如ク 203 回ニシテ其ノ中副作用ヲ示セル回数ハ 38 回(13.8%)ナリ。又之等ノ副作用ノ回数ヲ種類別ニ見ルニ第 15 表ノ示セル如クニシテ特ニ注意ヲ要スベキモノトシテハ僅ニ發熱 38°C 以上トナリタルモノ 10 回ニシテ、嘔吐 1 回其ノ他ヲ見タルモノ之等ハ總テ醫師ノ手ヲ煩ハサザル程度ノモノニシテ特ニ重大ト思ハルル副作用ヲ見ズ。而シテ本症例ニ於ケル副作用ハ第 1 回目ノ注射ニ際シテ見ラルルモノ多ク、特ニ同一人ニシテ數回同様ノ副作用ヲ表ハシタルモノヲ見タリ。以上ヨリ考フルニ「兩アクチワルサン」ノ優劣ヲ此處ニ定ムル事ハ甚ダ困難ナル所ナリ。又治療中尿中ニ蛋白ノ出現セルモノヲ「兩アクチワルサン」共ニ各 3 例ヲ見タルモ是ハ併用セル蒼鉛劑ニヨルモノナルカ否カ不明ナリ。

## 第 5 章 結 論

- 1) 余ハ「ナトロアクチワルサン」及ビ「ネオアクチワルサン」ノ臨牀治験ニ就テ報告セリ。
- 2) 「兩アクチワルサン」ハ純國產品ニシテ其ノ價低廉ナリ。

3) 「兩アクチワルサン」ハ蒸溜水ニ極メテ可溶性ニシテ其ノ使用法簡便ナリ。

4) 「兩アクチワルサン」ハ各期黴毒治療ニ於テ其ノ效力著明ニシテ他ノ砒素劑ニ優ルトモ劣ラザルヲ認ム。

5) 「兩アクチワルサン」ニハ特ニ重大ナル副作用ナク安ンシテ患者ニ應用シ得。

6) 「兩アクチワルサン」ノ優劣ヲ本症例ヨリ判定スル事ハ困難ナリ。

欄筆スルニ當リ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲ヲ賜ハリシ恩師根岸教授ニ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表ス。

